



中村会計だより 7月号

利益計画

昨今の厳しい経済状況のなかでも企業は生き残っていかなければなりません。それは、取引先や従業員はもちろん社会に対しての責任でもあります。そのためには売上をあげて、支出を減らし、利益を確保していかなければなりません。

当事務所で支援させていただいている継続MASシステムを利用した経営計画の立案においても、重要なことは来期の目標とする利益をいくりに設定するかです。目標利益の計算方法には「資金の流出から計算する方法」(必要利益)と「調達した資本に対するコストから計算する方法」(規範利益)の2つがあります。資金の流出から必要利益を計算する方法ですと借入金が多い会社ほど目標利益が大きくなるという矛盾が生じます。そこで調達した資本に対するコストから計算する方法を紹介いたします。

運用	B/S	調達	
		買掛金・支払手形	= 資本コストなし
		借入金×金利率	= 金融資本利子
		資本金×配当率 (10~15%)	= 配当留保・・・(a)
		剰余金 自己資本×成長留保率 (3~5%)	= 成長留保・・・(b)
総資産		総資本×危険率 (1~3%)	= 企業危険引当・・・(c)

法人税等 = $(a+b+c) \times 0.4 \div (1-0.4) \dots (d)$ ※実効税率40%と仮定した場合
 目標経常利益 = $a + b + c + d$

<具体例>

資本金	10,000千円	$\times 10\%$	=	1,000千円
自己資本	20,000千円	$\times 3\%$	=	600千円
総資本	50,000千円	$\times 1\%$	=	500千円
法人税等	1,400千円			
目標利益	3,500千円			



利益を確保することとは、単なる利潤追求ではなく、将来に事業を発展継続させ、発生するであろう将来のコストやリスクに備える意味において非常に重要です。そしてその利益を現金預金として残していくことはさらに重要です。ドラッカーは著書のなかで言っています。「企業にとって利益とは目標ではなく条件である」と。適正な利益を確保し、過度な節税に走ることなく納税をし、現金預金を蓄えていくことが安定した企業経営を行っていく最善の方法と考えております。

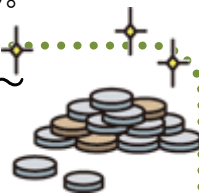
当事務所では、継続MASシステムを利用し企業の将来の発展継続のためにサポートさせていただきます。

現金管理のポイント

日々の現金管理は、正しい経理処理の基本です。現金の出納、いとも簡単に感じることで、企業の経理は現金に始まり、現金に終わるといっても過言ではありません。

～社内の現金管理を適切に行っていくために、次の5点が大切になります～

- ① 社長個人のお金と会社のお金を区別する。
- ② 現金の出納は現金管理責任者(社長以外)が行う。
- ③ 現金での支払いは小口なものに限定し、多額の現金を社内に常時保管しない。
- ④ 社内精算のルールを明確に決め、支払いは領収書・請求書をもとに行う。
- ⑤ 日々の現金有高を確認し、現金収支日報(現金出納帳)に記入する。



現金管理が上手くいっていない会社の帳簿は、経費の計上漏れ等の問題が必ず生じてきます。

例え少額でも、公私混同による私的流用があれば、社員に示しがつかないばかりか、不正や犯罪の温床になりかねません。また、後から漏れが発見されれば、修正に要する時間のムダや作業のムダが生じます。税務調査でも指摘を受け、問題になりやすい点です。

自社の現金管理が適切に行われているかを今一度見直し、管理体制を確立していきましょう。

節電対策

東日本大震災以降、節電が呼び掛けられています。



〈簡単にできる節電対策〉

出来る限りエアコンを使わずに扇風機を使う	削減率50%
エアコンの設定温度を28度にする	削減率10%
エアコンの節電の為「すだれ」「よしず」を使う	削減率10%
冷蔵庫の設定を「強→中」にし、扉の開け閉めを減らす	削減率 2%
テレビはリモコンではなく主電源で切り、見ないときはプラグを抜く	削減率 2%
炊飯ジャーは1日分をまとめて炊く	削減率 2%

「よしず」「すだれ」の代わりにつる性の植物を植えれば、文字通りグリーンカーテン、見た目も爽やかですね。頑張る節電しすぎて熱中症などにならないように注意も必要です。

1人ひとりの心掛けが大きな節電となります。他にも節電方法はありますが、皆さんはどのように取り組みますか？

